

授業科目	老年看護学特論 I Advanced Gerontological Nursing I	1・2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵 島田 玲児 柳澤 美直代	【所属】 新潟県立看護大学 新潟市民病院 グループホーム癒しの家	【氏名】 原 等子 竹内 真奈美	【所属】 新潟県立看護大学 上越総合病院		
【到達目標】						
1. 老年看護に活用可能な代表的な理論・アプローチについて、概念・内容・適用方法を説明できる。 2. 老年看護学の独立ならびに老人看護専門看護師制度の創設の背景・目的・役割機能を説明できる。 3. 老年看護の実践現場で生じやすい倫理的問題やジレンマとその解決のための専門看護師の役割を説明できる。また、倫理観醸成のための戦略的方策を探求できる。						
【授業概要】						
老年高度実践看護の基盤として、老年看護に活用可能な既存の理論・アプローチについて、概念・内容、適用方法と適用上の留意点などを学修する。また、学士課程における老年看護学の独立とその背景ならびに専門看護師制度の創設の背景と目的、求められる役割機能を理解し、老人看護専門看護師の国内外の活動の現状と課題を検討する。さらに、老年看護の実践現場において生じやすい倫理的問題やジレンマとその対応策および、倫理的感受性を鈍麻させる要因を検討し、倫理観の醸成・向上を図るための方策を検討し、老年高度看護実践者としての役割を追究する。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1	講義	授業のガイダンス	・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて	小長谷		
2-9	講義	老年看護に活用できる理論・アプローチの理解	老年医学看護の主要理論について学ぶ 「発達段階と生涯発達理論」 「aging と老化理論」 「セルフケア理論」 「家族理論」 「QOL と QOD」 「コンフォート理論」 「ストレングス理論」 「アンドラゴジー理論」 「エンパワメント理論」など	小長谷		
10-11	講義	学士課程における老年看護学の独立と、専門看護師制度の創設背景・目的・役割機能および活動の現状と課題	・学士課程における老年看護学の独立とその背景および教育の現状と課題 ・専門誌看護師制度の背景・目的および役割機能 ・老人看護専門看護師の現状と活動の実際ならびに活動上の課題（国内外、文献検討）	小長谷		
12			・老年看護高度実践者としての活動の実際	島田 竹内 柳澤		

13-15	講義	老年看護における倫理的問題と専門看護師の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者とその家族の看護において生じやすい倫理的問題やジレンマと倫理的感受性の醸成のための看護管理者や老人 CNS の役割（文献検討）</li> <li>・自施設における倫理的問題やジレンマの事例についての取組と課題（事例検討）</li> </ul>	小長谷
<p><b>【評価方法, 評価基準】</b>          学習課題に関する事前学修状況：30%，授業時の貢献度（発表・討議）：40%，課題レポート：30%</p>				
<p><b>【テキスト】</b> なし</p>				
<p><b>【参考書・資料等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平井俊策編（2005）：新・老化学，ワールドプランニング。</li> <li>・プリシラ・エバーソール，パトリシア・ヘス（2007）：ヘルシー・エイジングー人間のニーズと看護の対応，エルゼビアジャパン。</li> <li>・ベッキー・ファースト，ローズマリー・チャピン（2005）：高齢者・ストレングスモデルケアマネジメント・ケアマネジャーのための研修マニュアル，筒井書房。</li> <li>・E. H. エリクソン，J. M. エリクソン，H. Q. キヴニック著，朝長正徳ほか訳（1990）：老年期，みすず書房。</li> <li>・パット・セイン著，木下康仁訳（2009）：老人の歴史，東洋書林。</li> <li>・瀬口晶久著（2011）：老年と正義，名古屋大学出版会，</li> <li>・安西篤子著（2003）：老いの思想，草思社。</li> <li>・キャロライン・バード著，西岡公ほか訳（1985）エイジレス人間の時代ー不老社会を築くパイオニアたち，ABC 出版。</li> <li>・安西信子ほか著（1988）：成熟と老い，世界思想社。</li> <li>・小野寺健著（2002）：フォスター老年について，みすず書房。</li> <li>・河合隼雄（1997）：「老いる」とはどういうことか，講談社α文庫。          ＊その他，授業の中で随時紹介する。</li> </ul>				
<p><b>【受講, 課題, 資料配布等のルール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は基本的に学習課題・内容について学生が事前学習し，レポートを作成して発表するとともに疑問点や不明点，討議したい内容などについて討議して進めるゼミ形式とする。</li> <li>・事前学習の提出は，授業日の前日までに科目担当者に提出する（メール可）。</li> <li>・授業後のレポート課題          「学修した理論，アプローチを事例に適用しての学び（適用上の課題を含む）」          ＊詳細は初回開講時にガイダンスする          ＊COVID-19 の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）</li> </ul>				
<p><b>【教員からのメッセージ】</b></p> <p>老年高度看護実践者として高齢者個々の健康的生活を支援するには，既存の理論やアプローチを理解し，実際に適用して評価し，その意味を検討することが大切です。これまでの実践経験を理論的に評価してみることも必要かもしれません。さらに，高齢者看護の方法論（援助論）の開発に繋げていくことも大切です。まずは，高齢者看護の理論的根拠になる様々な理論やアプローチを修得しましょう。</p>				
<p><b>【オフィスアワー】</b> 火・金曜日</p>				

授業科目	老年看護学特論Ⅱ Advanced Gerontological Nursing Ⅱ	1・2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】 原 等子	【所属】 新潟県立看護大学		
【到達目標】						
1. 高齢者の加齢変化に伴う健康生活を評価する理論的枠組み・方法・活用上の留意点を説明できる。 2. 高齢者のフィジカルアセスメントの方法・留意点を学修し、学生やモデル人形を対象にシミュレーションを行うなどして実践できる。						
【授業概要】						
高齢者看護では、高齢者が心身諸機能の加齢変化に伴う生活機能の変化に適応しつつ健康的な生活を送ることができるよう支援することが重要である。そのためには、極めて個別性の高い加齢変化や健康生活のあり様のアセスメント能力を修得することが求められる。そこで高齢者の健康生活の評価方法として開発されているものを活用上の留意点も含めて学修する。また、高齢者のフィジカルアセスメントの方法・留意点などを学修し、シミュレーションや事例検討を通して修得する。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1	講義	授業ガイダンス ・高齢者の健康生活の評価方法	・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて ・高齢者看護における健康生活の評価の位置づけ・重要性、および評価する上での留意点など		小長谷 原	
2-6	講義	・老化に伴う高齢者の身体・精神の機能の評価	・呼吸・循環・身体運動・栄養・排尿・感覚・言語・調節・防衛・精神の機能の評価		小長谷 原	
7	講義	・老化に伴う高齢者の心理社会的機能の評価	・発達的评价、主観的幸福感、生活満足度など		小長谷 原	
8	講義	・高齢者を介護する家族の健康生活の評価	・家族の介護力の評価、介護負担感の評価など		小長谷 原	
9-10	講義	・高齢者の健康生活の包括的アセスメント	・高齢者の QOL の評価 ・老年医学総合評価：CGA ・国際生活機能分類：ICF ・MDS, インターライ ・センター方式 ・包括的自立支援プログラム ・看護理論家によるアセスメントなど		小長谷 原	
11-15	講義・演習	・高齢者のフィジカルアセスメントの方法	・高齢者のフィジカルアセスメントの方法・技術とそのポイント、留意点（頭頂から足先まで、前面から後面）		小長谷 原	
【評価方法，評価基準】						
事前学修状況：30%，授業時の貢献度（発表・討議）：40%，課題レポート：30%						
【テキスト】						
なし						

**【参考書・資料等】**

- ・日本老年医学会編(2008)：老年医学テキスト・改訂第3版，メディカルビュー社.
- ・平井俊策編(2005)：新・老化学，株式会社ワールドプランニング.
- ・前原澄子，野口美和子編(2005)：機能別臨床看護学1～8巻，同朋舎メディアプラン
- ・長寿科学総合研究 CGA ガイドライン研究班(2003)：高齢者総合的機能評価ガイドライン，厚生科学研究所.
- ・障害者福祉研究会(2002)：ICF 国際生活機能分類－国際障害分類改定版－，中央法規出版.
- ・大塚俊男，本間昭(1991)：高齢者のための知的機能検査の手引き，ワールドプランニング.
- ・プリシラ・エバーソール，パトリシア・ヘス(2007)：ヘルシー・エイジング－人間のニーズと看護の対応，エルゼピアジャパン.
- ・MDメゼイ(2004)：高齢者のヘルスアセスメント・自立生活支援の評価と解釈，西村書店.
- ・内閣府(最新版)：高齢社会白書.
- ・厚生労働統計協会(最新版)：厚生の指標 国民衛生の動向，国民の福祉と介護の動向.
- ・穴澤貞夫他編(2009)：排泄リハビリテーション－理論と臨床，中山書店.
- ・前原澄子，野口美和子編(2005)：機能別臨床看護学1～8巻，同朋舎メディアプラン.  
\*その他，授業の中で随時紹介する.

**【受講，課題，資料配布等のルール】**

- ・授業は基本的に学習課題・内容について学生が事前学習し，レポートを作成して発表するとともに疑問点や不明点，討議したい内容などについて討議して進めるゼミ形式とする.
- ・事前学習課題の提出は，授業日の前日までに教員に提出する(メール可).
- ・授業後のレポート課題：「高齢者の包括的アセスメントの実践事例を通じて，活用上の課題」  
\*詳細は初回開講時にガイダンスする.

**【教員からのメッセージ】**

高齢者個々の健康的生活を支援するには，高度な看護実践力が求められます．中でも健康生活評価方法やフィジカルアセスメント技術に関する確かな知識・技術・態度の修得が基盤になります．これらを修得して看護実践現場で個々の高齢者に適切に活用・指導できるようになることを期待します．

**【オフィスアワー】**

火・金曜日

授業科目	老年看護学特論Ⅲ Advanced Gerontological Nursing Ⅲ	1・2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵 太田 求磨 青木 悟 田中 紀裕	【所属】 新潟県立看護大学 県立柿崎病院 新潟労災病院 安江たなか歯科医院	【氏名】 原 等子 岡村 毅 傳田 博司 清水 徳子	【所属】 新潟県立看護大学 東京都健康長寿医療センター研究所 新潟労災病院 長野市民病院		
【到達目標】						
1. 高齢者に生じやすい主な疾患・障害ならびに老年症候群について、概念、病態生理と症候、診断・検査および治療法を説明できる。 2. 高齢者に生じやすい主な疾患・障害ならびに老年症候群の病態生理学的知識を高度実践看護に活用する方法を説明できる。						
【授業概要】						
老年看護高度実践者として必要な高齢者に生じやすい主な疾患や障害ならびに老年症候群の代表的なものを取り上げ、その概念、病態生理と症候、診断検査、治療法について学修する。また、これらの知識の高度実践看護への活用について討議し、その重要性についての理解を深める。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容		備考	
1	講義	授業のガイダンス	・授業の目標・内容・方法（進め方）、評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて		小長谷原	
2-5	講義	高齢者に生じやすい主な疾患・障害の概念、病態生理と症候、診断検査、治療法①	・呼吸器系の疾患・障害：肺がん、慢性閉塞性肺疾患、肺炎など ・心血管系の疾患・障害：虚血性心疾患、高血圧症、腹部大動脈瘤、心不全など ・消化器系内分泌系の疾患・障害：摂食・嚥下・栄養機能障害、糖尿病など		太田(DR)	
6・7	講義	高齢者に生じやすい主な疾患・障害の概念、病態生理と症候、診断検査、治療法②	・脳血管・脳神経系の疾患・障害：脳梗塞、脳出血、パーキンソン病、遺伝性神経障害など		青木(DR)	
8・9	講義	高齢者に生じやすい主な疾患・障害ならびに老年症候群の病態生理と症候、診断検査、治療法③	・整形外科的な疾患・障害：骨粗鬆症フレイルとサルコペニア・ロコモティブシンドローム、大腿骨頸部・転子部骨折、変形性膝関節症、脊柱管狭窄症など		傳田(DR)	
10・11	講義	高齢者に生じやすい主な疾患・障害ならびに老年症候群の概念、病態生理と症候、診断検査、治療法④	・歯科・口腔疾患：う歯、歯槽膿漏、歯牙欠損、義歯不適合など		田中(DMD)	

12・13	講義	高齢者に生じやすい主な疾患・障害ならびに老年症候群の概念，病態生理と症候，診断検査，治療法⑤	・精神障害：うつ病，せん妄，睡眠障害，自死・自殺，心身症など	岡村 (DR)
14	講義	高齢者に生じやすい主な疾患・障害の概念，病態生理と症候，診断検査・治療およびケア⑥	・尿路変更やストマ造設が必要になる泌尿器系疾患や大腸疾患	清水 (老人看護 CNS)
15	講義 討議	病態生理学知識や診断検査および治療法の知識の高度実践看護への活用	・病態生理，診断検査，治療法の修得と高度実践看護およびこれらの知識の高度実践看護への活用	小長谷 原
<b>【評価方法，評価基準】</b> 事前学修状況：30%，授業時の貢献度（討議）：30%，課題レポート：40%				
<b>【テキスト】</b> なし				
<b>【参考書・資料等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・折茂肇編（2010）：新老年学，東京大学出版会。</li> <li>・鞍元築監修（1994）：ベッドサイド老年病学，南江堂。</li> <li>・山城守也ほか編（1995）：ベッドサイド老年病学，南江堂。</li> <li>・大内尉義編（2010）：老年病のとらえかた-眼でみるベッドサイドの病態生理，文光堂。</li> <li>・大内尉義ほか編（2010）：疾患と治療薬-医師と薬剤師のためのマニュアル，南江堂。</li> <li>・大内尉義ほか編（2012）：新しい骨粗鬆症治療，診断と治療社。</li> <li>・松下正明ほか編（1998）：臨床精神医学講座 12 老年期精神障害，中山書店。</li> <li>・青木眞著（2015）：レジデントのための感染症診療マニュアル，医学書院。</li> <li>・大曲貴夫ほか編（2015）：感染管理・感染症看護テキスト，照林社。</li> <li>・川島真（2016）：看護師さん，薬剤師さんに贈る優しく学べる皮膚疾患，メディカルレビュー社。</li> <li>・松尾浩一郎：5つのテーマでわかる若手歯科医師のための高齢者歯科ハンドブック 全身疾患・義歯・口腔ケア・摂食原義・訪問診療，医歯薬出版。</li> <li>・高橋正明（2014）：研修医のための整形外科診療「これだけは！」，医学書院。</li> </ul> ＊その他，授業の中で随時紹介する。				
<b>【受講，課題，資料配布等のルール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各単元の学習課題，学習内容について事前に予習して基礎的知識をもって授業に臨み，疑問や不明点などについては講義を通じて理解できるようにする。また，授業を通じて，疾患学の学修方法を修得し，授業で取り上げなかった高齢者に生じやすい疾患・障害などは自己学修して理解する。さらに，15回目の授業では，事前に自己の考えをまとめて発表・討議し，理解を深めるようにする。</li> <li>・授業後のレポート課題 「高齢者の結核・感染症，自己免疫性疾患，白血病・がんの定義・種類・病態生理と症候，診断検査，治療法」 ＊詳細は初回開講時にガイダンスする。 ＊COVID-19の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）</li> </ul>				
<b>【教員からのメッセージ】</b> 高齢者の病態像は，加齢変化に疾患や障害が加味して複雑・多岐に渡り，症状・病状が典型的でなく，診断に苦慮することも少なくありません。本授業では，各々の疾患や障害の専門家である医師や高度看護実践者に教授を依頼しています。老人看護 CNS の役割を果たすための基礎的知識であるため，各々単元の学修課題を事前学修して授業に臨み，講義を通じて確かな知識として修得できることを期待しています。				
<b>【オフィスアワー】</b> 火・金曜日				

授業科目	老年高度看護援助論 I Advanced Gerontological Nursing Care I		1・2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵 植田 恵 毛内 寛子	【所属】 新潟県立看護大学 帝京平成大学 長野赤十字病院	【氏名】 原 等子 清水 徳子	【所属】 新潟県立看護大学			
【到達目標】							
<p>1. 高齢者の自立的・自律的生活を保持・推進するために、高齢者に生じやすい主な生活機能の低下・障害について予防的および発生時の看護援助の方法を追究できる。</p> <p>2. 高齢者の権利擁護の観点から療養支援上、生じやすい倫理的課題に対する看護職の役割と対応策について追究できる。</p>							
【授業概要】							
<p>心身の加齢変化に伴って高齢者に生じやすい生活機能の低下・障害に対し、自立性・自律性を維持・推進する看護援助の方法を学修・追究する。また、高齢者看護において生じやすい倫理的問題について、高齢者の権利擁護の観点から倫理的判断を含む高度な看護実践が求められる例を取り上げて検討する。加えて自然災害時の高齢者看護について検討する。</p>							
【授業計画】							
回数	授業形態	学習課題	学習内容			備考	
1	講義	授業のガイダンス	・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書および単元担当者などについて			小長谷原	
2	講義	高齢者に生じやすい主な生活機能の低下・障害の予防と発生時の看護	・運動機能の低下・障害、転倒・転落および寝たきりの予防と発生時の看護			小長谷原	
3-5	講義		・摂食・嚥下機能・栄養機能の低下・障害の予防と発生時の看護			小長谷原	
6	講義		・皮膚の防衛機能の低下・障害、スキンケアおよび褥瘡の予防と発生時のケアおよびスキンケア			清水 (老人看護 CNS)	
7	講義		・身体防衛機能の低下・障害、高齢者に生じやすい感染症とその予防およびアウトブレイク時の対応			毛内 (感染管理 CN)	
8	講義		・言語・聴覚機能の低下・障害発生時の看護			植田 (ST)	
9			・感覚(視聴覚)機能の低下・障害発生時の看護			小長谷原	
10	講義		・精神機能の低下・障害、せん妄やうつ状態の予防と発生時の援助			小長谷原	
11	講義		自然災害時における高齢者看護	・自然災害時の高齢者の支援（防災、避難時の課題）			小長谷原

12・13	講義	高齢者の権利擁護と看護支援②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束廃止と高齢者虐待予防法</li> <li>・高齢者虐待の実態や虐待予防の取組みの現状と課題</li> <li>・高齢者虐待の事例検討</li> </ul>	小長谷
14・15	講義	高齢者の権利擁護と看護支援①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の事例・状況について、高齢者権利擁護の観点から倫理的判断を含む倫理的対応の検討を通じて、高度看護実践者の役割を追究する</li> <li>①意思疎通の低下・障害の高齢者</li> <li>②検査・治療・ケアの選択決定</li> <li>③療養の場の選択決定</li> <li>④終末期における治療・ケア</li> <li>⑤家族介護者や身元引受人の不在</li> <li>⑥成年後見の制度活用</li> </ul>	小長谷
<p>【評価方法、評価基準】</p> <p>事前学修状況：30%，授業時の貢献度（討議）：40%，課題レポート：30%</p>				
<p>【テキスト】</p> <p>なし</p>				
<p>【参考書・資料等】</p> <p>&lt;高齢者の生活機能の低下・障害と看護&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中島紀恵子，石垣綾子監修(2010)：高齢者の生活機能再獲得のためのケアプロトコール-連携と協働のために，日本看護協会出版会。</li> <li>・穴澤貞夫他編(2009)：排泄リハビリテーション-理論と臨床，中山書店。</li> <li>・前原澄子，野口美和子編(2005)：機能別臨床看護学1～8巻，同朋舎メディアプラン。</li> </ul> <p>&lt;高齢者の権利擁護と看護支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箕岡真子，稲葉一人(2010)：わかりやすい倫理 日常ケアに潜む倫理的ジレンマを解決するために，ワールドプランニング。</li> <li>・厚生労働省(2018)：人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン。</li> <li>・日本老年医学会(2001.2012)：「高齢者の終末期の医療およびケア」に関する日本老年医学会「立場表明」。</li> <li>・西川満則ほか(2016)：本人の意思を尊重する意思決定支援～事例で学ぶアドバンス・ケア・プランニング，南山堂。</li> <li>・高崎絹子編著(2004)：「身体拘束ゼロ」を創る-患者・利用者のアドボカシー確立のための知識と技術，中央法規出版。</li> <li>・厚生労働省(2001)：身体拘束ゼロへの手引き～高齢者ケアに関わる全ての人に～。</li> </ul> <p>*その他，授業の中で随時紹介する</p>				
<p>【受講，課題，資料配布等のルール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業は基本的に学習課題・内容について学生が事前学習し，レポートを作成して発表するとともに疑問点や不明点，討議したい内容などについて討議して進めるゼミ形式とする。</li> <li>・12回目の高齢者虐待の事例について，体験事例がある場合は事例提供する（授業の1週間前）。</li> <li>・事前学修課題：授業日の前日までに教員に提出（メール可）</li> </ul> <p>*詳細は初回開講時にガイダンスする。</p> <p>*COVID-19の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）</p>				
<p>【教員からのメッセージ】</p> <p>高齢者は加齢変化に伴い生活機能の低下を生じやすく，容易に障害へと移行しますが，それでもなお，依然として有する自立性・自律性を見逃さず，その発揮を促す援助が極めて重要となります。また，やむなく生活機能の障害を有した場合も，安易に全面的な援助を提供するのではなく，忍耐強く高齢者の自立性・自律性を引き出し，ケアに反映することが求められます。これは高齢者の権利擁護の観点からも重要です。また，老年看護高度実践者としては，倫理的感受性を高め，倫理的問題やジレンマに積極的に対峙する力が必要です。様々な事例を通じて，今一度，看護の本質に繋がるケア倫理を追究していきましょう。</p>				
<p>【オフィスアワー】</p> <p>火・金曜日</p>				



授業科目	老年高度看護援助論Ⅱ Advanced Gerontological Nursing CareⅡ	1・2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵 古澤弘美 帆苺久美	【所属】 新潟県立看護大学 長岡崇徳大学 新潟県福祉保健部医師・看護職員確保対策課	【氏名】 原 等子 梨木恵実子	【所属】 新潟県立看護大学 群馬大学		
【到達目標】						
<ol style="list-style-type: none"> <li>我が国と海外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷と動向を知識基盤に、超高齢多死社会を迎える我が国の高齢者保健医療・福祉政策（看護師・介護人材の確保の在り方を含む）のあり方を探究できる。</li> <li>高齢者を地域で支援するための地域包括システムの現状と課題およびそれを実現するための専門職（多職種）連携・協働やその教育の現状と課題を追究できる。</li> <li>フォーマルサポートとインフォーマルサポートの概念・種類およびメリット・デメリットを説明できる。</li> <li>高齢者の保健・医療・福祉の制度・政策の策定プロセスを学修し、政策提言者としての高度看護実践者の役割を追究できる。</li> </ol>						
【授業概要】						
<p>高齢者の保健・医療・福祉制度・政策の変遷と動向について、海外（欧米・アジア圏）について学修し、世界に類を見ない速さで少子高齢化、多死社会を迎える我が国の高齢者保健・医療・福祉のあり方を追究する。とりわけ我が国で推進している地域包括システムの現状から課題を見出し、高度看護実践者としての役割を探求する。</p>						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1	講義	授業のガイダンス	・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書および単元担当者などについて	小長谷原		
2・3	講義 （*注意）	・高齢者保健医療福祉に関する制度・政策策定のプロセスと高度看護実践者の役割	・政策形成過程とステークホルダー ・政策策定のエビデンスとプロセス ・政策・法令の施行と財源 ・看護政策と看護行政の実態			
4-5	講義	・海外における高齢者保健医療福祉制度・施策の現状と課題	・アメリカ・ドイツ・フィンランド・イギリス・スウェーデン・オーストラリアなどにおける高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷と動向および課題 ・アジア圏（中国・台湾・シンガポールなど）における高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷と動向および課題	小長谷原		
6-7	講義	・我が国の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷と動向	・我が国の高齢者保健医療福祉制度・政策の歴史的概観 ・我が国の介護保険制度の変遷と動向および課題	小長谷原		
8	講義	・保健医療福祉の人材確保の現状と課題	・我が国及び本県における保健医療福祉の人材育成・確保対策の現状と課題	帆苺		

9	講義	・フォーマル・インフォーマルなサポートシステムの現状と課題および高度看護実践者の役割	・フォーマルサポートとインフォーマルサポートの概念・種類およびメリット・デメリット ・国内外のインフォーマルサポートおよびピアサポートの現状と推進するための高度看護実践者の役割	小長谷原
10・11	講義	・我が国で推進している地域包括システムの現状と課題	・地域包括システム構築に必要な要素 ・全国・県内の地域包括システム構築の現状と課題 ・地域包括システムをさらに推進するために高度実践看護者としての役割	古澤
12-13	講義	・在宅療養高齢者と家族の支援	・在宅看護を取り巻く現状と課題 ・在宅療養高齢者のケアマネジメント ・在宅療養支援における訪問看護師の活動の現状と課題	梨木
14・15	講義	・専門職（多職種）連携およびその教育の現状と課題	・専門職（多職種）連携と連携教育の定義と方法	小長谷原
【評価方法，評価基準】 事前学修状況：30%，授業時の貢献度（討議）：40%，課題レポート：30%				
【テキスト】 なし				
【参考書・資料等】 ・厚生労働統計協会：国民衛生の動向（最新版） ・厚生労働統計協会：国民の福祉と介護の動向（最新版） ・内閣府：高齢社会白書（最新版） ・新潟県福祉保健課 企画調整室：新潟県地域保健医療計画（最新版） ・新潟県福祉保健課 企画調整室：新潟県の高齢者の現況（最新版） ・中島恒雄(2003)：21世紀の高齢者福祉と医療 日本とアメリカ，ミネルヴァ書房。 ・李 啓充(2009)：続アメリカ医療の光と影，医学書院 ・鈴木優美(2010)：デンマークの光と影-福祉社会とネオリベラリズム-，リベルタ出版。 ・木下康仁(1992)：福祉社会スウェーデンと老人ケア，勁草書房。 ・宇佐美耕一(2011)：研究双書 新興諸国における高齢者生活保障制度-批判的社会老年学からの接近- IDE-JETRO アジア経済研究所。 *その他，授業の中で随時紹介する。				
【受講，課題，資料配布等のルール】 *注意：2・3回目の授業は，「看護政策論」（坪倉非常勤講師）の3・4回目の授業を履修のこと，したがって「看護政策論」を履修できるが，2コマ重複履修になるため，「看護政策論」を履修しても単位認定はできないので注意 ・授業は基本的に非常勤の単元以外は，学習課題・内容について学生が事前学習し，レポートを作成して発表し，疑問点や不明点，討議したい内容などについて討議して進めるゼミ形式で行う。 ・事前学修課題：授業日の前日までに教員に提出（メール可） ・授業後のレポート課題：「我が国の高齢者保健医療福祉の今後あり方」 *詳細は初回開講時にガイダンスする。 *COVID-19の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）				
【教員からのメッセージ】 世界に類の見ない速さで高齢化が進み人口減少期にいたるわが国の超高齢社会において，長寿で豊かに生きられること，エイジレスに障害の有無にかかわらず活躍できることが理想にかかげられる社会をつくるのが命題となっています。他国の政策をモデルにしつつ，わが国独自の状況を加味した高齢社会のモデルづくりが求められています。地域包括ケアシステム，多職種連携のあり方も探求されています。老年看護学的視点でいかなる政策が必要かつ実現可能か検討し提言できるようにしましょう。				

授業科目	老年看護特別演習 I Seminar of Gerontological Nursing I	1・2 学年	後期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】 原 等子	【所属】 新潟県立看護大学		
【到達目標】						
<p>1. 加齢変化に伴う慢性疾患および家族関係が複雑な状態にある高齢者と家族の包括的アセスメントに基づく看護の必要性の診断、看護計画の立案ができる。高齢者の医療施設（一般病院、地域包括支援病院・病棟、回復期リハビリ病棟など）における入院治療、慢性的継続的に必要となる薬物・食事・運動療法などを在宅やケア施設における健康管理、病院-施設-在宅間のケア連携に必要な制度や多職種連携についても計画し、評価できる。</p> <p>2. 1 を通じて老人看護 CNS に求められる多職種（専門職）連携・協働のための調整、相談、倫理調整、教育に関するレポートを作成し、発表・討議により自己の課題を明らかにできる。なお、研究に関する演習は、学部生の専門ゼミナールへの参加助言・指導もしくは自施設の看護職の研究活動への助言・指導を行う。</p>						
【授業概要】						
<p>老人看護 CNS の実習への円滑化を図るための演習であり、CNS に求められる 6 つの役割機能について、実際に慢性期にある高齢者とその家族を対象に包括的アセスメント、看護の必要性の診断プロセス、診断リストの作成および看護計画立案までの過程を展開する。6 つの専門看護師の役割のレポート作成に際しては、CNS 受験時の申請書類の一部として提示されている実績報告書の様式に基づいて記述を試みる。</p>						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1	講義	授業のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて</li> <li>PDCA サイクルを基盤にした看護過程の思考法、課題解決に関する基礎的知識・技術、活用する書式、医療福祉施設の確認</li> </ul>	小長谷原		
2・3	フィールドワーク ①	老年高度実践看護事例：複雑な病態像で入院治療を要する慢性期あるいは急性憎悪期の高齢者の事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>○報告書の書式は問わないが、以下の記述を含むプレゼンテーションレポートを作成</li> <li>・高齢者の「看護の必要性」を全人的・包括的に捉えるアセスメント</li> <li>・根拠のある診断プロセスおよび優先度に基づく診断リスト</li> <li>・長期・短期目標の設定とこれらを達成するための具体的・個別的計画立案</li> <li>○高度実践、調整に関するレポートは、CNS 受験時に申請する実績報告書の書式に基づく</li> </ul>			
4・5	フィールドワーク ②	退院（入院・入所）支援・退院（入院・入所）調整事例	<ul style="list-style-type: none"> <li>○レポートによる報告を行い、学習課題の達成状況の考察</li> <li>○学習課題の取組み状況の発表について、客観的に達成状況を評価、自己の課題の明確化</li> <li>*フィールドワーク①②の発表・討議は、学生一人 1 時間以内でできるよう準備</li> </ul>			
6・7	プレゼンと討議	フィールドワーク①②の発表・討議				

8・9	フィールドワーク ③	教授案作成に基づく教育・研修計画（実施）	○対象者のレディネスを踏まえた適切かつ有効な現任教育（研修等）の計画を立案・実施・評価 ・目標・内容・方法（方略）・留意点・評価などで構成する
10	プレゼンと討議	フィールドワーク③の発表・討議	○フィールドワーク③の成果発表と討議 ○学習課題の取組みの達成状況を客観的に評価でき、自己の課題の明確化 *フィールドワーク③の発表・討議は、学生一人30分以内でできるよう準備
11-13	フィールドワーク ④	コンサルテーションおよび倫理調整の事例	○相談・調整事例の報告 ・コンサルティ中心の場合、コンサルタントとして、コンサルティの困難な問題を明確化して整理・評価し、解決に向けてコンサルティの力量を引き出すプロセスを踏んでいることが理解できる記述 ・倫理調整として、倫理的問題の明確化解決のために誰とどのような倫理的調整を図るか、その結果のプロセスの記述 ○コンサルテーションおよび倫理調整のレポートは、CNS受験時に提出する実績報告書の書式に基づく
14-15	プレゼンと討議	フィールドワーク④の発表・討議	○フィールドワーク④のコンサルテーションおよび倫理調整の体験事例から目標達成状況の考察 *フィールドワーク④発表・討議は、学生一人1時間分以内でできるよう準備
<b>【評価方法・評価基準】</b> 事前学修状況：30%，授業時の貢献度（討議）：40%，課題レポート：30%			
<b>【テキスト】</b> なし			
<b>【参考書・資料等】</b> *既修の授業で紹介した著書・論文など *その他、授業の中で随時紹介する。 *COVID-19の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）			
<b>【受講，課題，資料配布等のルール】</b> ・事前学修課題：授業日の前日までに教員に提出（メール可） *詳細は初回開講時にガイダンスする。			
<b>【教員からのメッセージ】</b> 本演習は老人看護 CNS の実習への導入的学修であるため、既修の科目の学修内容を活かして取り組んでください。特に課題レポートは、CNS の受験時の申請に必要な実績報告書に該当し、受験対策になります。また、いずれの体験事例も貴重であり、客観的な振り返りを通して、CNS としての実践力を高める土台になることを期待しています。			
<b>【オフィスアワー】</b> 火・金曜日			

授業科目	老年看護学特別演習Ⅱ Seminar of Gerontological Nursing II		1・2 学年	後期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位	
担当教員	【氏名】 ◎原 等子 岡村 毅 松田 修 小池 京子	【所属】 新潟県立看護大学 東京都健康長寿医療センター研究所 上智大学 医療法人大誠会内田病院	【氏名】 小長谷 百絵 山上 徹也 田中 美紀	【所属】 新潟県立看護大学 群馬大学大学院 (社)認知症の人と家族の会新潟県支部				
【到達目標】								
1. 認知症の疫学，最新の診断と治療・療法に関する知見を説明できる。 2. 認知症に関連する多様なアセスメント方法を学修し，認知症の進行抑止，行動障害の予防・緩和ならびに発症から死に至るまでの心身の回復や安寧に貢献する看護実践，生活環境の調整，家族やスタッフからの相談対応，尊厳を守り倫理的意思決定に対応できる能力を修得できる。 3. 認知症ケアに関連する地域活動への参加や実践家との討論を通して，老年看護高度実践者としての役割，課題について検討でき，さらに，この分野の実践的研究課題について探究できる。								
【授業概要】								
学習課題に関する看護実践に関する文献購読，認知症当事者（本人・家族）の手記や講演録の視聴，認知症のアセスメントや評価法の演習，認知症ケアが行われている臨床の場の見学や地域活動への参加，認知症の診断治療およびケアの専門家との討議を中心にすすめる。								
【授業計画】								
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考				
1	講義	認知症ケアの歴史と展望	・認知症ケアの歴史，パーソン・セントアード・ケア	原				
2-3	講義	認知症の医学的基礎知識	・認知症の定義 ・主な認知症の種類と病態生理（原因疾患を含む）および行動・精神心理症状 ・認知症の診断と治療 ・主な認知症の進行・経過・予後	非常勤（岡村）				
4	講義	認知症高齢者の包括的アセスメント	・アセスメントツール，認知症ケアパスとその活用方法	原				
5-6	講義	認知症の非薬物療法①	・脳活性化リハビリテーションとアクティビティーケア ・作業回想療法	非常勤（山上）				
7	講義	行動・心理症状の理解とケア	・認知症の行動・心理症状（BPSD）の理解とケア	原				
8	講義	認知症の非薬物療法②	・心理療法	非常勤（松田）				
9	講義	認知症高齢者のケア倫理	・認知症高齢者と介護家族のケア上，生じやすい倫理的問題とその専門的対応	原				
10	講義	認知症の非薬物療法③	・認知症の人とのコミュニケーション技法 ・ユマニチュード，バリデーショナルなど	原				
11-12	演習（フィールドワーク）	認知症の非薬物療法③	・認知症疾患治療センター，老健，特養，グループホームなどにおける認知症の人のケアの実際の見学 ・音楽療法士による音楽療法の実際の見学	小池				

13-14	演習（フィールドワーク）	認知症高齢者を支える地域活動	・認知症ケアに関連する勉強会・研修会・研究会・認知症の人と家族に関するピア活動への参加	田中
	講義	認知症高齢者を介護する家族支援	家族会の役割と活動，看護の関わり	
15	講義 演習	認知症終末期における専門的看護支援	・終末期に生じやすい問題と認知症の人と家族の支援	原
<b>【評価方法，評価基準】</b> フィールドワークの成果：25%×2，授業（討議）への貢献度：50%				
<b>【テキスト】</b> なし				
<b>【参考書・資料等】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トム・キットウッド著/高橋誠一訳（2005）：認知症のパーソンセンタードケア，筒井書房.</li> <li>・日本神経学会監修（2018）：認知症疾患治療ガイドライン2018，医学書院.</li> <li>・山口晴保編著（2010）：認知症の正しい理解と包括的医療・ケアのポイント・快一徹！脳活性化リハビリテーションで進行を防ごう，協同医書出版社.</li> <li>・堀内園子著（2008）：認知症看護入門・誠実さと笑いと確かな技術で包む世界，ライフサポート社.</li> <li>・成本迅（2016）：認知症の人の医療選択と意思決定支援，クリエイツかもがわ.</li> <li>・イブ・ジネスト，ロゼット・マレスコッティ著，本田美智子監修：Humanitude ユマニチュード「老いの介護の画期的な書」，（株）トライアリスト東京.</li> <li>・村井淳志（2000）：重度痴呆性老人のケア・終末期をどう支えるか，医学書院.</li> <li>・(DVD) ビッキー・デクラーク・ルビン，公認日本バリデーション協会監修：見当識障害のあるお年寄りとの新たなコミュニケーション法・バリデーション法，筒井書房.</li> <li>・既習の科目で紹介した参考図書           <ul style="list-style-type: none"> <li>*その他，授業の中で随時紹介する</li> <li>*COVID-19の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）</li> </ul> </li> </ul>				
<b>【受講，課題，資料配布等のルール】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習および演習は，ゼミ形式（学習の課題・内容を事前に調べ，授業では発表・討議）で進める.</li> <li>*授業の詳細は，初回開講時にガイダンスする.</li> </ul>				
<b>【教員からのメッセージ】</b> 認知症の本人の思い，本人支援，認知症フレンドリー社会の構築，家族支援・教育などについて現場での実際を踏まえ，より良い実践のあり方について討論していきたいと思っております．老年看護高度実践者としての役割や課題を見出し，自己の課題を明確にできることを期待しています．				
<b>【オフィスアワー】</b> 火・金曜日				

授業科目	老年看護学特別演習Ⅲ Seminar of Gerontological Nursing Ⅲ	1・2 学年	後期	選択 老人看護 CNS 必修	30 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】 原 等子	【所属】 新潟県立看護大学		
【到達目標】						
1. 老年看護の実践経験や既修の科目および文献検討等から研究の背景の明確化をはかり，研究課題を設定できる。 2. 研究の目的・意義を明確にし，目的達成のための研究デザインと方法（研究協力者，データ収集方法，分析方法）および倫理的配慮を検討して研究計画案を作成できる。 3. 研究計画案作成まで，及びその後の研究活動から論文作成までの実行計画を立案できる。						
【授業概要】						
老年看護にかかわる関心領域に関する研究課題の動向を把握する。受講生は学習課題，学修内容に基づいて調べて発表資料を作成し，ゼミ形式により報告・討議する。						
【授業計画】						
回数	授業形態	学習課題	学習内容	備考		
1	講義	・授業のガイダンス ・特別研究・課題研究の確認	・授業の目標・内容・方法（進め方）・評価方法，受講・課題・資料配布等のルールの説明 ・研究コースの専門領域特別研究，CNS コースの課題研究として取組む研究についての確認	小長谷 原		
2・3	セルフ・ラーニング	研究課題の検討①	・研究課題着想の動機と背景（実践経験，既修の科目，文献のレビュー・クリティーク），専門学会等への参加などを通じて，研究課題を設定する。			
4・5	演習 （発表・討議）	研究課題の検討②	上記の取組みの発表・討議を通じて，研究課題名，研究の背景（動機・文献レビュー）の精度を高める。			
6・7		研究課題の検討③				
8-11	セルフ・ラーニング	研究計画書の作成①	・研究の目的・意義の明確化 ・研究目的を達成する研究デザイン・方法（研究協力者，データ収集方法，分析方法）の明確化 ・倫理的配慮の文章化			
12・13	演習 （発表・討議）	研究計画書の作成②	上記の取組みの発表・討議を通じて，研究課題名，研究計画案の精度を高める。			
14・15		研究計画書の作成③				
【評価方法，評価基準】						
研究計画作成過程の取組状況：50%，授業への参加度：50%						
【テキスト】						
なし						
【参考書・資料等】						
・「看護学研究法」で紹介された文献 ・研究課題に即した既修の科目の授業で紹介された文献 *そのほか授業の中で随時紹介する。						

**【受講，課題，資料配布等のルール】**

・詳細は初回開講時にガイダンスする.

\*COVID-19 の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）

**【教員からのメッセージ】**

後続する研究活動も含めて長期にわたるため，セルフケアしつつ，老年看護学や老年看護の実践現場に貢献する研究課題の明確化と研究計画書作成に取り組むことを期待しています.

**【オフィスアワー】**

火・金曜日



授業科目	老年高度実践看護学実習 I Advanced Clinical Practice of Gerontological Nursing I	2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	180 時間	4 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵 東條紀子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【氏名】 原 等子	【所属】 新潟県立看護大学		
【到達目標】 様々な加齢変化に加え、複数の慢性の疾患や障害により複雑な病態像を呈して入院治療を要する高齢者とその家族、また、自立的な生活が困難で退院後も継続的に医療・介護が必要であるものの、様々な理由から自宅での介護が受けられないためにケア施設に移動したり、対応困難な状況で在宅に移行している高齢者とその家族などに対する、高度な看護実践能力を習得する。具体的には高齢者とその家族を対象に、彼らのニーズと現状のギャップや状態改善をはかるために、老年看護に関連する諸理論を適用し、個別性を重視した包括的なアセスメントに基づく看護を展開する。また、実習指導者（老人看護 CNS、看護師長、看護部長など）による指導の下、組織的な看護活動、スタッフ教育、相談、調整、倫理調整、研究指導を通して専門看護師としての能力を修得する。						
【実習方針】 高齢者の入院患者が多い医療施設で CNS に求められる高度看護実践、スタッフ教育、相談、調整、倫理的調整、教育、研究に関する事項を実習する。指導教員ならびに高齢者看護に経験豊富な老人看護 CNS、看護師長および施設の看護管理者の指導のもとに実習を行う。 なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例と退院計画 1 例）また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポートを CNS 受験時の申請書の一部である実績報告書の様式に準じて各 1 部作成する。						
【実習内容】						
項目		実習内容				
1	高度看護実践	慢性の疾患・障害をもち、ニーズや家族背景等が複雑、解決困難な状況をもつ入院高齢患者の事例を担当し、看護実践を行う。身体や精神、社会面から包括的アセスメントを行い看護ケアが必要な状態の診断のもと、家族を始めとするインフォーマル・フォーマルなサポートシステム、ケアに関わる多職種とのチームアプローチ、連携・協働を考慮した看護過程を展開する。ケアプランを立案し、問題解決のための実践・評価を行う。また、退院予定の高齢患者の退院支援、退院調整にかかわる実習を行う。				
2	倫理	倫理的判断が必要な看護場面において、関係者間の倫理的調整と意思決定の支援ができるよう実習する。				
3	調整	対象者に必要な医療やケアが効果的に提供されるために、高齢者ケアに携わる家族、保健・医療・福祉職間の調整の在り方について実習する。				
4	相談対応	看護職を含むケア提供者（コンサルティ）からの相談を受け、コンサルテーションの知識・技術を活用して相談対応する実践から評価までの実習を行う。				
5	スタッフ教育	実習施設の役割・機能を考慮し、ケアチームにおける看護専門職として、スタッフのケア実践に関する助言を行う。また、ケアの質向上につながるスタッフ教育・研修計画を企画・実施・評価の実習を行う。				
【評価方法、評価基準】 実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%						
【テキスト】 なし						

**【参考書・資料等】**

- ・既修の科目における参考文献や資料
- ・実習中に随時紹介する。

**【受講，課題，資料配布等のルール】**

- ・実習要項を事前に配布し，説明する。実習の目的・目標を十分理解すること，また，実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては，ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと。
- ・実習の目的・目標達成のための具体的な実習計画書（課題，受持つ対象像，日程と具体的活動など）を事前に作成し，教員・臨地指導者と調整する。

**【教員からのメッセージ】**

- ・CNS に求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに，CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り，看護職のモデル的役割を発揮してほしいと思います。また，実習 I の目的・目標を十分理解し，その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと，調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。

**【オフィスアワー】**

火・金曜日

授業科目	老年高度実践看護学実習Ⅱ Advanced Clinical Practice of Gerontological NursingⅡ	2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	180 時間	4 単位
担当教員	【氏名】 ◎原 等子 東條紀子	【所属】 新潟県立看護大学 新潟県立看護大学	【氏名】 小長谷 百絵	【所属】 新潟県立看護大学		
【到達目標】 認知症高齢者の複雑で対応の難しい問題や生活上の課題に対して解決や状態改善をはかるために、認知症ケアに関する諸理論を適用し、個別性を重視した包括的なアセスメントに基づく看護を展開する能力を修得できる。また、臨床指導者（看護師長、施設管理者）とともに、組織的なケア活動、スタッフ教育、相談、調整、研究指導を通して専門看護師としての能力を修得できる。						
【実習方針】 認知症高齢者が医療施設（外来）受診に到った経緯、外来における診断検査・治療および医療施設や介護老人保健施設、認知症高齢者対応共同生活介護（グループホーム）に入院・入所して治療・ケアを受ける認知症高齢者の背景を理解し、老人看護 CNS に求められる役割を修得できるよう実習する。指導教員ならびに老人看護 CNS もしくは認知症認定看護師もしくは認知症高齢者看護に経験豊富な看護師長及び施設管理者の指導のもとに実習を行う。 なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例と退院計画 1 例）また、倫理、調整、相談、スタッフ教育の実践活動レポート各 1 部を作成する。						
【実習内容】						
項目		実習内容				
1	高度看護実践	認知症高齢者に対して、身体・精神・社会面から包括的アセスメントを行い、家族を始めとするサポートシステム、ケアに関わる多職種とのチームアプローチ・連携を考慮したケアプランを立案し、問題解決のための看護実践、評価ができるよう実習する。				
2	倫理	倫理的判断が必要とされる看護場面で関係者間の倫理的調整と意思決定の支援ができるよう実習する。				
3	調整	対象者に必要なケアが効果的に提供されるために、高齢者ケアに携わる家族、保健医療福祉職間の調整の在り方について実習する。				
4	相談対応	看護職を含むケア提供者（コンサルティ）から相談を受け、コンサルテーションの知識・技術を活用して相談に対応する実践から評価まで実習する。				
5	スタッフ教育	実習施設の役割・機能を考慮し、ケアチームにおける看護専門職として、スタッフのケア実践に関する助言を行う。また、ケアの質向上につながるスタッフ教育・研修計画を企画、実施、評価を実習する。				
【評価方法、評価基準】 実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%						
【テキスト】 なし						
【参考書・資料等】 実習の中で随時紹介する。						

**【受講，課題，資料配布等のルール】**

- ・ 本学の実習要項を事前に配布し，説明する．実習の目的・目標を十分理解すること，また，実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては，ホームページなどを活用して情報を入力し理解しておくこと．
- ・ 実習の目的・目標達成のための，具体的な実習計画書（課題，受持つ対象像，日程と具体的活動など）を事前に作成し，教員・臨地指導者と調整する．

**【教員からのメッセージ】**

- ・ CNS として求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに，CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り，看護職のモデル的役割を発揮してほしいと思います。また，実習Ⅱの目的・目標を十分理解し，その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと，調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。

**【オフィスアワー】**

火・金曜日

授業科目	老年高度実践看護学実習Ⅲ Advanced Clinical Practice of Gerontological NursingⅢ	2 学年	前期	選択 老人看護 CNS 必修	90 時間	2 単位
担当教員	【氏名】 ◎小長谷 百絵	【所属】 新潟県立看護大学	【氏名】 原 等子	【所属】 新潟県立看護大学		
【到達目標】 慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害等により医療施設での入院治療を経て、依然として複雑で対応の難しい問題や生活上の課題を有しながら継続的に在宅での療養支援が必要な高齢者とその家族を対象として、看護を展開する能力を習得する。高齢者と家族のニーズと現状のギャップに応じた解決や状態改善をはかるために、在宅看護に関連する諸理論を適用し、個別性を重視した包括的なアセスメントに基づき看護を展開する。また、在宅で生活する高齢者の権利擁護に努め、安全・安心できる生活環境やケア体制、介護サポートづくりを行い専門看護師としての能力を修得できる。						
【実習方針】 慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害等により入院治療を経た高齢利用者が多く占める訪問看護ステーションにおいて訪問看護を実習する。また、在宅高齢者看護に関連する課題を持って実習に臨み、看護体験を踏まえた上で課題レポートを作成する。指導教員並びに在宅高齢者看護に経験豊富な看護管理者、臨床指導者のもとに実習を行う。 なお、高度看護実践のケースレポート（看護過程 1 例）と課題レポートを各 1 部作成する。						
【実習内容】						
	項目	実習内容				
1	高度看護実践	慢性の疾患・障害や認知症・高次脳機能障害を有する在宅療養高齢者に対して、老年看護実践の理論をふまえ、身体や精神、社会面から包括的専門的にアセスメントを行い、家族やサポートシステム、介護保険・医療保険サービス等の活用を考慮したケアプランを立案し、問題解決のための看護実践、評価を行う。 <方法・内容> ・受け持ち事例に対して訪問看護を行い、高齢者や家族に生じている問題やニーズを診断し、解決すべきケアプランを作成する。 ・ケアプランをスタッフと共有し、問題解決を早期にはかる専門性の高い看護実践を行う。 ・看護師だけでなく、介護支援専門員などの多職種と連携を行い、看護師としての意見を明確にし、課題解決のための検討を行う。 ・アウトカム評価を行い、ケアの評価を的確に行う。 ・受け持ち事例だけでなく、他の事例にも目を向け、積極的に訪問看護の実践を行う。				
2	課題学習	在宅における高齢者看護に関連する課題をもって実習に臨み、看護体験や課題にそった情報収集により課題レポートを作成する。また、その成果をスタッフに報告する。				
【評価方法、評価基準】 実習事前準備、実習の出席状況、実習目標達成度の自己評価、実習指導者と指導教員による評価、実習レポートの評価を総合して行う。 実習事前準備：20%、実習参加状況：30%、実習ならびに課題レポート：50%						
【テキスト】 なし						
【参考書・資料等】 ・既修の科目における参考文献や資料 ・実習の中で随時紹介する。						

**【受講，課題，資料配布等のルール】**

- ・実習要項を事前に配布し，説明する．実習の目的・目標を十分理解すること，また，実習施設の場所・理念や方針・組織・看護提供体制などについては，ホームページなどを活用して情報を入手し理解しておくこと．
- ・実習の目的・目標達成のための，具体的な実習計画書（課題，受持つ対象像，日程と具体的活動など）を事前に作成し，教員・臨地指導者と調整する．

**【教員からのメッセージ】**

- ・CNS に求められる 6 つの役割について十分復習して理解を深めておくとともに，CNS を志向する学生としての基本的なマナーを守り，看護職のモデル的役割を發揮してほしいと思います。また，実習Ⅲの目的・目標を十分理解し，その達成に向けて臨地指導者とより良い関係のもと，調整しつつ効果的な実習を展開することを期待しています。

**【オフィスアワー】**

火・金曜日